

校訓 「くじけるな のびよ身と心 大望をもて」



あかぎ

赤木名の子らよ、大木になれ・七本のあかぎ

6月号 平成29年6月26日(月)発行

《 いのち チャレンジ(挑戦) 感動 感謝 》

赤木名小校区歴史の一コマ！

校長 前田 和洋

平成29年度も3か月が過ぎ、1学期も7月を残すのみとなりました。古人の諺にもある「光陰矢の如し」「歳月人を待たず」の如く、瞬く間に過ぎ去った3か月でした。入学式、土曜参観、PTA総会、修学旅行(6年)、春の一日遠足、宿泊学習(5年)等の学校行事に加え、地域では、河川奉仕作業や校区バレーボール大会、舟漕ぎ大会等の盛だくさんの催しがありました。保護者、地域の皆様の本校学校教育に対する御協力に心より感謝申し上げます。



さて、5月中旬に外金久の平川久嘉様より一通の古いお手紙の写しをいただきました。(東京赤木名会に出席された際、会長の山田達朗様よりいただいたそうです。)それは、昭和31年12月25日に赤木名の山田武一様より元赤木名小学校長の新徳吉盛様【第11代校長 昭和12年4月～昭和15年3月まで在職】に宛てられた御手紙です。その中には、新徳校長の本校在職中の功績や感謝の念、興味深い事柄が述べられていました。記載されてあるうちの幾つかを御紹介します。

- 在勤中に校区の為に真心を持って尽くして下さった御智徳として、水源地より水を引いて学校の水道を完備したこと。
- ガジュマルやモクマオを植林され、それが生育し、大きな陰を作り、子どもたちの遊び場となったこと。(真夏の奄美に夏知らずの場を作り子どもたちを楽しませたそうです。)
- ガジュマルは、当時幹周りが2m50cm(8尺余)、気根の周りが1m(3尺3寸)枝葉の茂りが縦16m(53尺)、横13m(43尺)で百枚の畳を敷いて余る木陰を作ったこと
- 整備した水道設備が昭和26年の大雨で使用不可能となり、学校の押し上げポンプで水を挙げ、学校の水不足を解消しようとしたこと。
- 戦前の修身や地理、歴史の教科が廃止され、徳や先人の遺徳を子どもたちが学ぶ機会が少なくなったこと

その他にも、二宮金次郎像建立のエピソードも綴られていました。新徳校長と共に勤務されていた山田氏の御子息と御息女は、志半ばにして御逝去されます。そのお二人の意志を引き継ぐ思いから、二宮金次郎像を建立したい旨を第15代の永田忠男校長(昭和27年9月～昭和32年3月まで在職)に相談されたそうです。鹿児島や加治木には造り元(製作者)がいると聞いたので、できればその情報も提供していただきたい旨の文面も書かれていました。



実際、現在校舎前に立つ二宮金次郎像の裏の碑文には、「創立八十周年を記念し、本校に在職せし二子故山田勝則・カエの遺志を継ぎ之を建つ、昭和三十三年五月吉日、父山田武一」と記されています。

【二宮尊徳像】

私は早速、御手紙の内容を全校朝会で子どもたちに紹介しました。子どもたちは真剣に私の話に耳を傾けて聴いていました。

本校は、9月で創立139年を迎えます。進取の気風を取り入れることも大切ですが、この赤木名に綿々と受け継がれている伝統や歴史を子どもたちに伝え受け継いでいくことの重要性を感じ入ることでした。